

33:14 神はある方法で語られ、また、ほかの方法で語られるが、人はそれに気づかない。
33:15 夜の幻と、夢の中で、または深い眠りが人々を襲うとき、あるいは寝床の上でまどろむとき、
33:16 そのとき、神はその人たちの耳を開き、このような恐ろしいかたちで彼らをおびえさせ、
33:17 人にその悪いわざを取り除かせ、人間から高ぶりを離れさせる。
33:18 神は人のたましいが、よみの穴に、はいらないようにし、そのいのちが槍で滅びないようにされる。
33:19 あるいは、人を床の上で痛みによって責め、その骨の多くをしびれさせる。
33:20 彼のいのちは食物をいとい、そのたましいはうまい物をいとう。
33:21 その肉は衰え果てて見えなくなり、見えなかった骨があらわになる。
33:22 そのたましいはよみの穴に近づき、そのいのちは殺す者たちに近づく。
33:23 もし彼のそばに、ひとりの御使い、すなわち千人にひとりの代言者がおり、それが人に代わってその正しさを告げてくれるなら、
33:24 神は彼をあわれんで仰せられる。
「彼を救って、
よみの穴に下って行かないようにせよ。
わたしは身代金を得た。」
33:25 彼の肉は幼子のように、まるまる太り、彼は青年のころに戻る。
33:26 彼が神に祈ると、彼は受け入れられる。
彼は喜びをもって御顔を見、
神はその人に彼の義を報いてくださる。
33:27 彼は人々を見つめて言う。

「私は罪を犯し、正しい事を曲げた。
しかし、神は私ようではなかった。
33:28 神は私のたましいを贖ってよみの穴に下らせず、私のいのちは光を見る。」と。
33:29 見よ。神はこれらすべてのことを、二度も三度も人に行なわれ、
33:30 人のたましいをよみの穴から引き戻し、いのちの光で照らされる。
33:31 耳を貸せ。ヨブ。私に聞け。黙れ。私が語ろう。
33:32 もし、言い分があるならば、私に言い返せ。言ってみよ。あなたの正しいことを示してほしいからだ。
33:33 そうでなければ私に聞け。黙れ。あなたに知恵を教えよう。

エリフは神が人に御心を教え、悟るようにされる方法について語ります。1つは15節からにあるように、夢や幻です。それは高ぶりや滅びから守るためです。もう1つは痛みによってです。そして代弁者としての御使いは弁護してくれて、神は回復を与えてくださるということです。さらに何度も主はそのことをなさって、悟りの鈍い者でもわかるようにしてくださいまし、また回復させてくださるのです。

夢、幻、痛みさえも主の善き計画にあることを信じましょう。またそこから学びましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

